

---

# 君の力

コウメ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君の力

### 【Nコード】

N9707E

### 【作者名】

コウメ

### 【あらすじ】

恋をしたくない子が男の子によって動かされてく兼愛の話です。

(前書き)

ありがとうございます。耕作・・・。

あたしは今、中3。

あたしのクラスの女子はほとんど恋愛をしてる。

あたしは、あたしは好きな人なんて……。

いないもん。

もう二度とあんな事にはなってほしく……ないもん。

申し送れました。

あたしは、

野崎 穂乃香

(ノザキ ホノカ)

### 過去

あたしが、中1の時の彼氏は

風間 拓也

(カザマ タクヤ)

デートの日」

「欲しいものある？」

「って聞かれたの。」

「あたしは」

「うーん……。」

「アクセサリーとか？」

「拓也は最高の彼氏だった。」

「優しく、」

「あたしの事よく分かってて、」

「大切にしてくれてる。」

「うん ネットクレスがいいな」

「よし。俺今から買いに行くから、穂乃香は明日に備えてろ！」

「うん」

「ぢゃ」

と別れをすげ買いに行ってくれた。

そして次の日……

待ち合わせの場所に行ってもこなくて家に帰ったら、  
電話がなかった。

ブルブルル

「はい。野崎です。」

「穂乃香さん？」

「ハイ……。」

「いっ……今すぐいきます」

あたしは急いでいえをでた。

ついたのは、病院。

拓也のお母さんから聞いたはなしによると……。

「昨日、拓也が夜に帰ってきたの。

でどうしたの？って聞いたら、

彼女にプレゼントを買おうと思ったけど、全部店しまった。

って言ってたの。

朝に置手紙があって、

プレゼント探してくる。

って書いてあったのよ。

で病院から電話があって、拓也がひかれたって……。」

拓也のお母さんのはなしがおわると、

涙が出てきた。

「あつ……あたしのせいだ。

たあ……拓也ああゴメンなさい」

あたしは、こんなに優しい彼をなくした。

で、もう恋はしない。  
決めたの。

告白

いつもどおりに学校へ通うと・・・。

「野崎さん」

と声がして、ふりむいた。  
そしたら、クラスの男子、

高野 耕作

(タカノ コウサク)

「高野君?どうしたの!?!」

「後で屋上に来て」

と行って走っていった。

「ええ!!ちょっとまって!!」

そんな事を言ってももういないから意味ないよ!  
と、おもってしまった。

そしてあたしは屋上へ向かった。

「なんでも・・・」

「あっ野崎さんってそのお・・・」

「ん？」

「好きな奴とか・・・いんのお？」

「えっ・・・。」

ドキ！

「すっ・・・好きな人・・・。」

「うん」

あたしは一瞬拓也を思った。

「うーん・・・。」

いっ・・・いないよ？」

「ぢゃっ、ぢゃあさあ、俺と付き合ってよ。」

「たっ・・・高野君？冗談は駄目だよ」

「えーつと・・・。」

まじなんだあ」

「えっ？」

「まあ、考えといて」

「えっ・・・。」



まじかあ……。  
あたしは恋するけんりなんか……。  
ないよお……。

そして、あたしは返事をした。

「たっ……。高野君。あたし、恋するけんりないから……。  
ごめんなさい。」

「なんで恋しちゃいけないの？」

あたしは高野君に全て話した。

「……。」

「だから、恋をしちゃいけないの。」

そしたらいきなり高野君が、抱きついてきた。  
高野君は泣いていた。

「えっ……。高野君？」

「辛かったな。けどそれは仕方のないこと。  
彼氏だって、きつとわかってくれる。  
だから大丈夫だよ。」

と、高野君は、優しく言ってくれた。  
あたしも泣いた。

「わあ〜んづう」

「大丈夫。俺が居る。」

「高野君……。ありがとう。」

「じゃあ、また明日。」

といい、帰った。

あたしは、夜ずっと考えた。

拓也……。許して。

あたし、高野君なら平気な気がするの。

そして深い眠りについた。

高野君への気持ち

あたし高野君なら平気。

もう一回高野君を呼んだ。

「高野君！」

「ん？」

「あたしと付き合ってください。」

「……。」

マジー!!うん!ゼッタイOK!!」

そして授業中に手紙が回ってきた。  
ん？ダレから？と思って中を開いたら、

「俺が一生守る。」

ゼツタイ幸せにするから。

帰りよかつたら一緒に帰らない！？」

あたしは冷たい心が

高野君によつて暖かくなつていった。

「うん！一緒に帰ろうね。」

帰り一緒に帰った。

色々な話をし、笑顔が絶えない。

やっぱり高野君の事好き！

「高野君！あの手紙、ラブレターって事にしていい！？」

「うん」

そして家についた。

「あのさ……。」

穂乃香つて呼んでいい？」

「うん じゃあ耕作でもいい？」

「当たり前」

高野君すごい優しい笑顔だね。

「今度デートしよ！」

「うん　いくいく！」

「じゃ！またなっ」

あたしは明日の用意をした。

### デート

あたしは気合の入った服

「明日、楽しみだなあ！！！」

あたしは独り言を言っていた。

次の日

耕作が迎えに来た。  
ピンポン！！

あわてて家をでた。

「はっ・・・ハイ！」

「おはよう」

「おはよ  
」

「穂乃香、どこ行きたい!？」

「うーん……。あつ!水族館がイイ  
」

「よし!じゃあ行くか  
」

「うん  
」

あたしはワクワクと、ドキドキしながら耕作の車に乗った。あたし達はおしゃべりをしてたらあつという間についてしまった。

「ついたぞ  
」

「アハハ やった  
」

と言って中へ入った。

あたし達はまずイルカショーを見た  
あたしはイルカが大スキ

「イルカ好きなんだな  
」

「えっ……。なっ何で知ってるの?」

疑問に思った。

「穂乃香を見れば分かる  
」

あたしは恥ずかしかった。

キス!?

その後・・・キスをいきなりされた。そして唇が離れた時、

「ごめん！驚いたよな・・・可愛かったから・・・つい」

そんな顔が真つ赤な耕作が可愛くてしょうがなかった。

あたしは耕作にキスをしてしまった。

2人で顔をあわせたら笑ってしまった。  
そんな時間が楽しかった。

そして、もう夜になり家に帰った。

5年後

あたし達は、結婚をして、子供が1人できた。

あたしたちは幸せ。

あたしはこんな幸せになると思ってもいなかった。  
耕作ありがと・・・。

大好きだよ。

あたし達はハッピーエンドになった

あとがき

読んでくださった人、ありがとうございました。  
もし評判が良かったらこの続きを書きたいと思っています。  
これからもよろしくお願いします

コウメ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9707e/>

---

君の力

2011年1月21日06時27分発行